

サブカルチャーを通じた 日独交流

一般財団法人 山岡記念財団
若者文化シンポジウム

参加費無料
日独同時通訳

◎講演

「ひとりぼっちだけど
寂しくない」

—オタクの行方 1990~2018

フォルカー・グラスムック
Volker Graßmuck

●評論家・メディア社会学者

「日本で広がる
ドイツ発の体験型ゲーム
LARPとは？」

ビヨーン=オーレ・カム
Björn-Ole Kamm

●京都大学講師

「ドイツ・サブカル事情、
その深奥を探る！」

マライ・メントライン

Marei Mentlein

●コラムニスト・通訳・翻訳家

◎コメンテーター

稲葉 振一郎

Shinichiro Inaba

●明治学院大学教授

◎司会

田野 大輔

Daisuke Tano

●甲南大学教授



2018年3月18日(日) 13:00~16:00
(受付開始 12:30)
大阪工業大学 OIT 梅田タワー
常翔ホール (3F)

お申し込み方法

山岡記念財団ホームページより
お申し込みください。
<https://yamaoka-memorial.or.jp>
ネットでお申し込みの方は、12:15より優先入場して頂けます。
申し込み〆切：2018年3月15日12:00迄。



主催 一般財団法人 山岡記念財団

〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町 1-9 梅田ゲートタワー 18F
Tel: 06-7636-0219 Fax: 06-7636-0212 E-mail: yamaoka-memorial@yanmar.com

<https://yamaoka-memorial.or.jp>

後援



ドイツ連邦共和国総領事館



大阪ドイツ文化センター

一般社団法人 大阪日独協会



サブカルチャーを通じた日独交流

一般財団法人 山岡記念財団 若者文化シンポジウム

「ひとりぼっちだけど寂しくない」 —オタクの行方 1990～2018

日本の「オタク」が注目され始めた1990年は、ポストモダン、社会運動、若者サブカルチャーの時代だった。それから30年近く経った今日、「オタク現象」はネットによってグローバル化し、日本のポップカルチャーのみならず、オタク的な情報戦略や社会性の形態も世界中に拡大している。その社会学的な意味を考える。



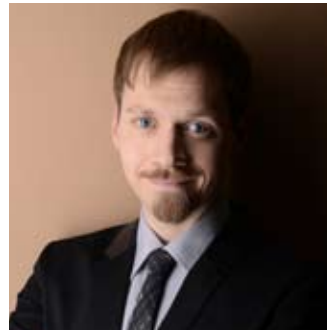
フォルカー・ グラスムック

Volker Graßmuck

評論家・メディア社会学者。デジタルメディアやネット公共圏の問題を研究。日本のメディア史やオタクの問題を論じた著書がある。

日本で広がるドイツ発の 体験型ゲームLARPとは？

LARP (ライブ・アクション・ロールプレイ) は、即興劇と物語作りの組み合わせによる「脱出ゲーム」に近いものであり、世界中で人気を集めている。日本のLARPはドイツから輸入されたルールが出発点だったが、最近では娯楽LARPや教育LARPのなかに様々な新しい形態が登場している。そうした日本の現状を報告する。



ビョーン＝ オーレ・カム

Björn-Ole Kamm

京都大学講師。日本研究・コミュニケーション学を専攻。グローバルな視点からロールプレイング・ゲームの研究を行なっている。

ドイツ・サブカル事情、 その深奥を探る！

戦車、第三帝国、ヘタリア等、日本のサブカル趣味のネタに「ドイツ」は欠かせない存在だ。では翻って逆に「ドイツにおけるサブカル」とは何か？ どのような状況にあるのか？ 実はそこには終わりのない「教養カルチャーとの相克」がうかがえる。文芸、アニメ、マンガを軸に、そのドイツ的な社会事情を概観する。



マライ・ メントライン

Marei Mentlein

コラムニスト・通訳・翻訳家。NHKのドイツ語講座でも活躍。ドイツのミステリーや映画などを紹介するコラムを連載している。



●コメンテーター

稲葉振一郎

Shinichiro Inaba

明治学院大学教授。専門は社会倫理学。政治哲学・倫理学を講じる一方、ポップカルチャー・サブカルチャーの問題にも造詣が深い。

撮影:新井卓



●司会者

田野大輔

Daisuke Tano

甲南大学教授。歴史社会学・ドイツ現代史・ナチズム研究。現代ドイツの若者文化やライフスタイルの問題にも関心をもつ。

交通アクセス

- JR「大阪」駅から徒歩5分
- 地下鉄御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- 地下鉄谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
- 阪急電鉄「梅田」駅から徒歩3分
- 阪神電鉄「梅田」駅から徒歩7分

大阪工業大学 梅田キャンパス OIT梅田タワー 大阪市北区茶屋町1-45

